

母子相姦



んもう！

しょうがない子ね…

いったいどこで
間違ってしまったのか

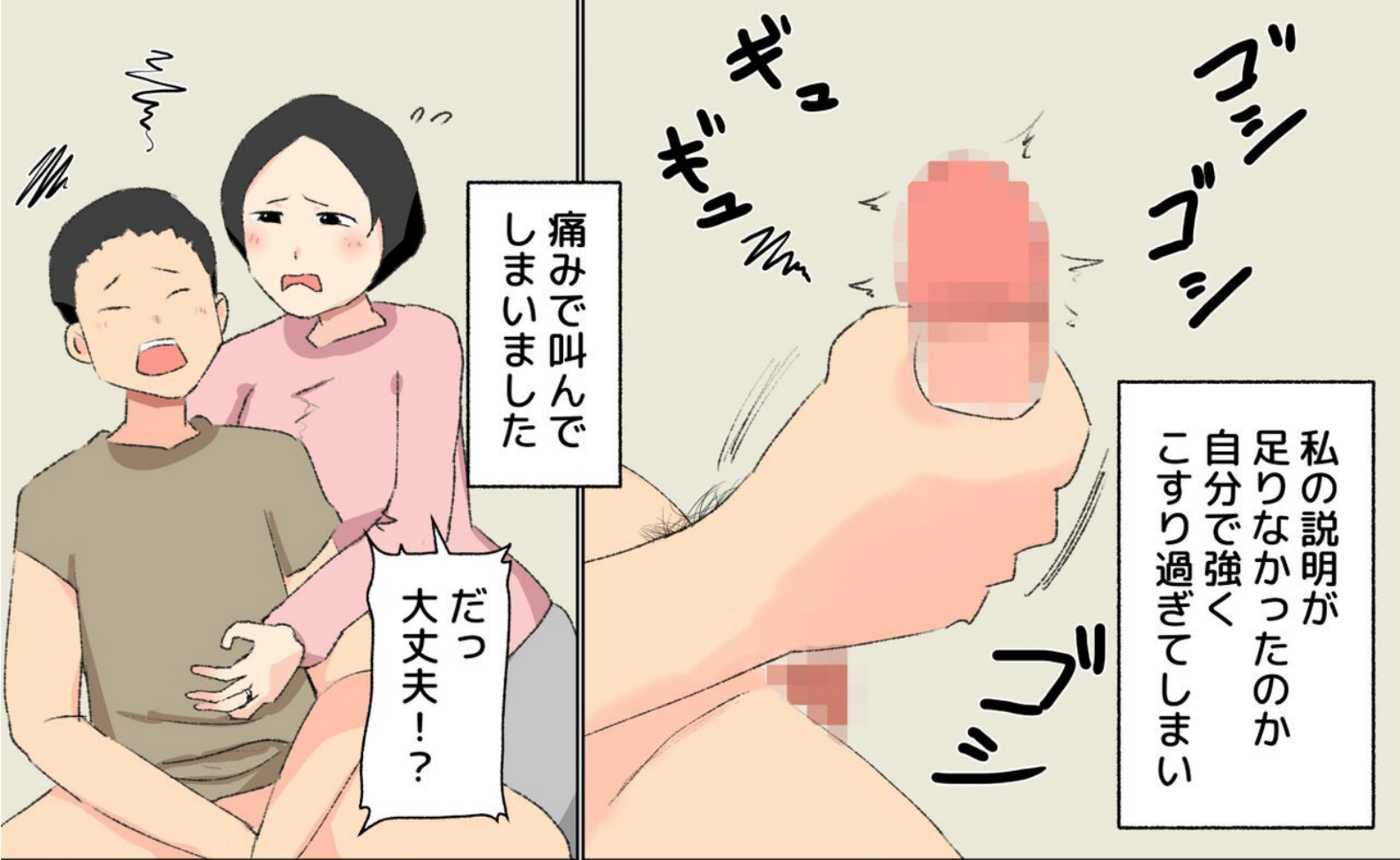
以前より教育は
親がするものという
価値観を持っていました

性教育についても
例外ではなく

年頃になる前に
きちんとした情報を
与えなければと思い

男女の体の違いや
性行為について少しずつ
教えていきました

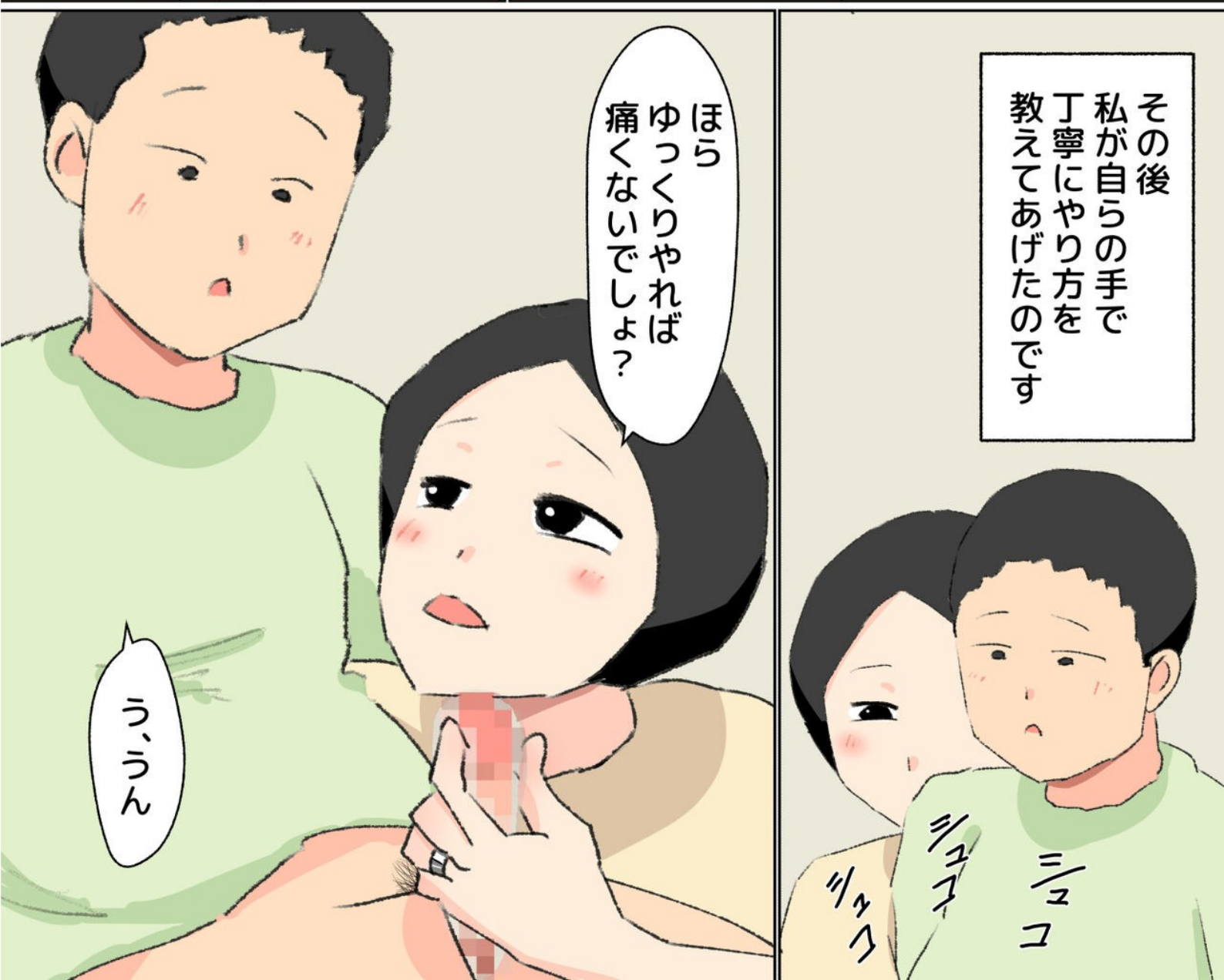
そして時がたち、実際に
息子に一人で自慰を
やらせてみた時のこと：



痛みで叫んで
しまいました

だっ
大丈夫!?

私の説明が
足りなかったのか
自分で強く
こすり過ぎてしまい

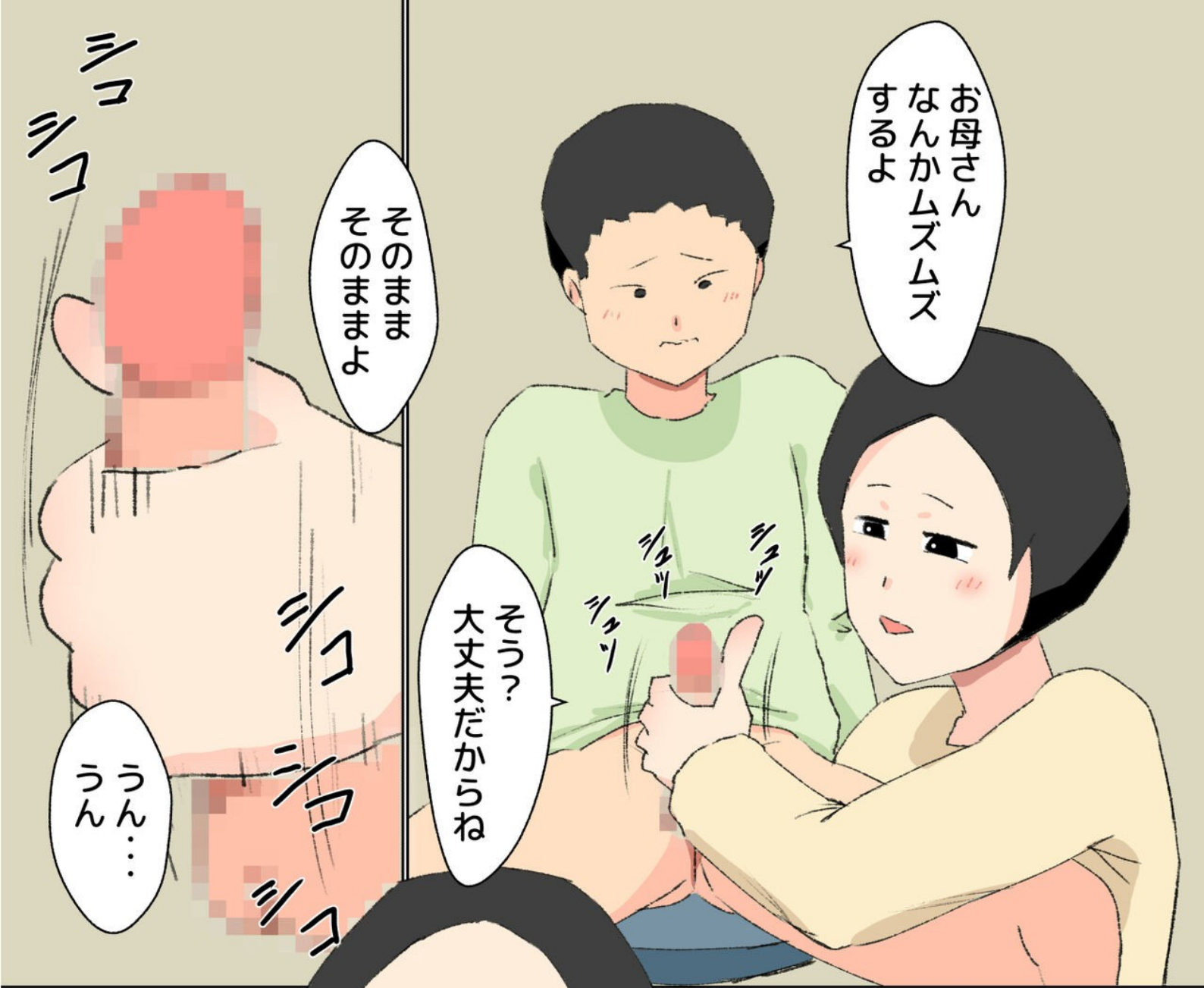


ほら
ゆっくりやれば
痛くないでしょ?

うん
うん

その後
私が自らの手で
丁寧にやり方を
教えてあげたのです

シュッ
シュッ
シュッ

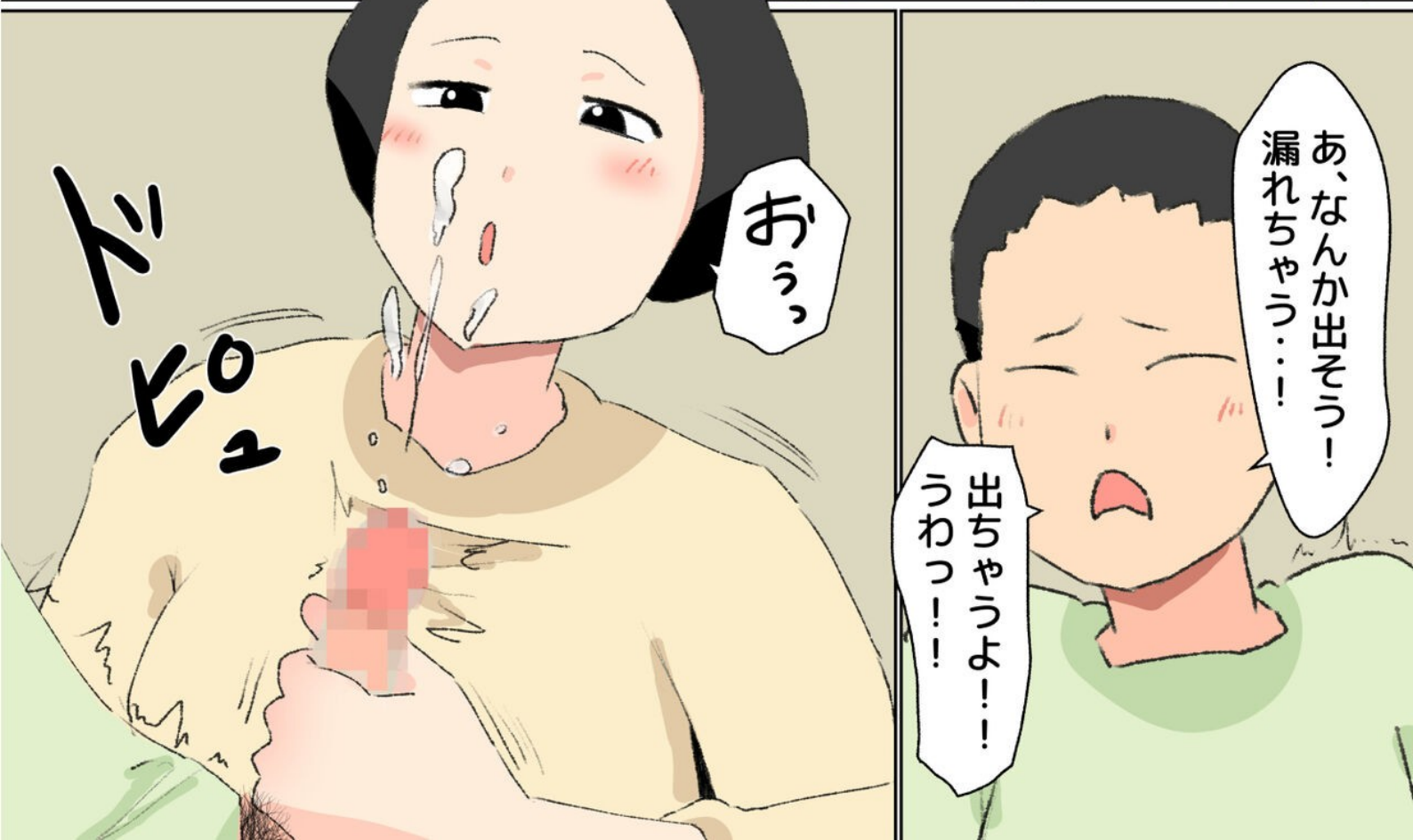


お母さん
なんかムズムズ
するよ

そのまま
そのままよ

そう？
大丈夫だからね

うん…



あ、なんか出そう！
漏れちゃう…！

出ちゃうよ…！
うわっ…！

おう

しかし
それからというもの

息子はなかなか
私の言うことを
聞いてくれません

ことあるごとに
自慰の手伝いを
せがんでくるよう
なっていました

夫に話したら
「そんなことはやめろ」
と言われたのですが

：それからも
私が優柔不断なせいで
夫に隠れてズルズルと
息子の手伝いを
続けてしまっていました



自分でも甘いと
わかってはいても

あれ？
お母さん
太った？

苦労して産んだ
たった一人の
息子は
かけがえのない
存在で

お母さん
忙しいんだから…

肝心なところで厳しく
突き放せなかったのです

やめなさい…

息子も父親にバレたら
まずいとわかつている様子で

お母さん

んもう
この子は…

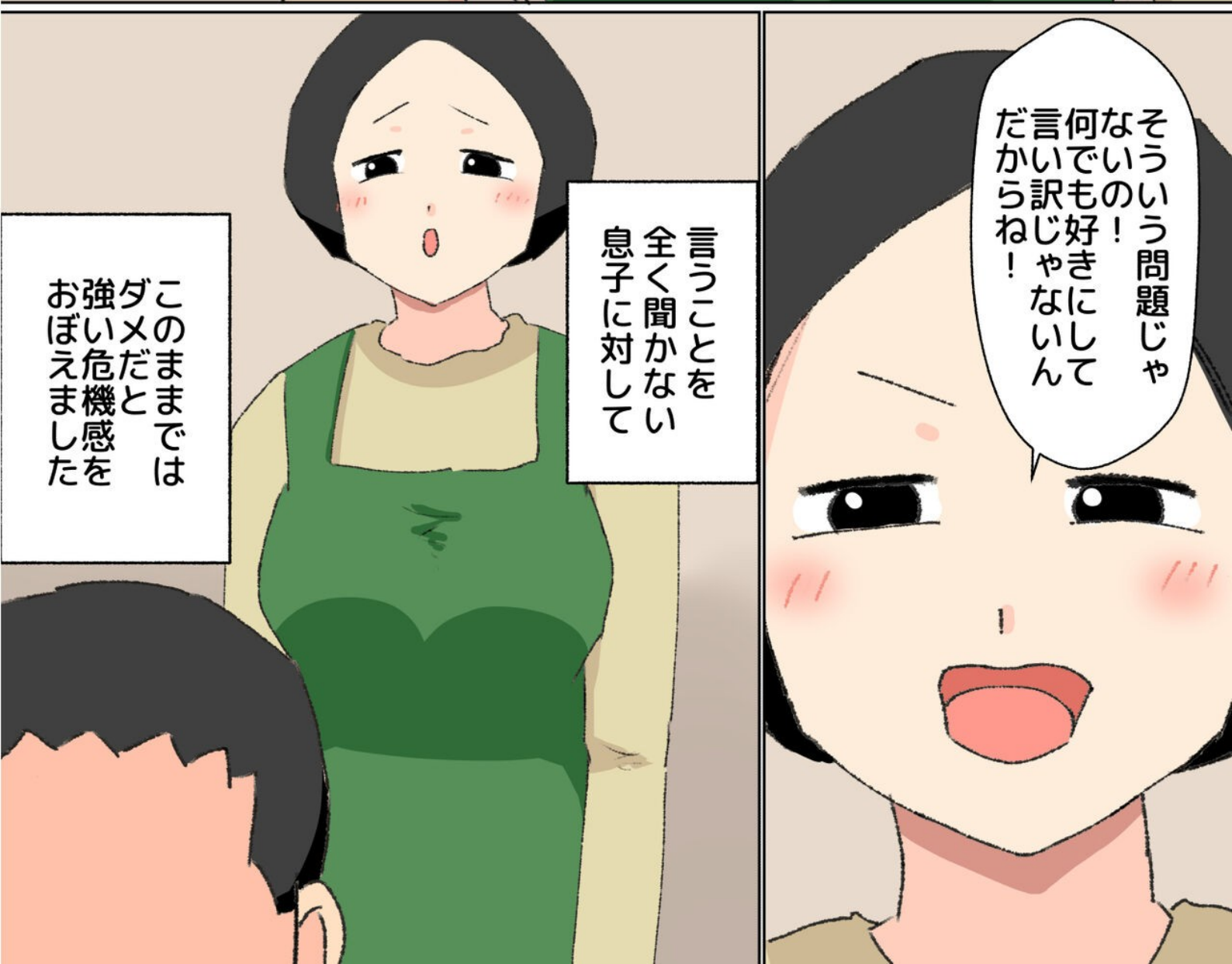
二人きりになった時だけ
しつこくボディタッチを
してきました

そしてある日のこと
やけに息が荒いなど
思ったら

なあに？
うるさいわねえ

なんと私のお尻に
ちんちんをこすりつけて
射精していたのです

えっ!?



後日

お母さんもう
我慢出来ないわ

今日限りでこんなこと
終わりにしましょう

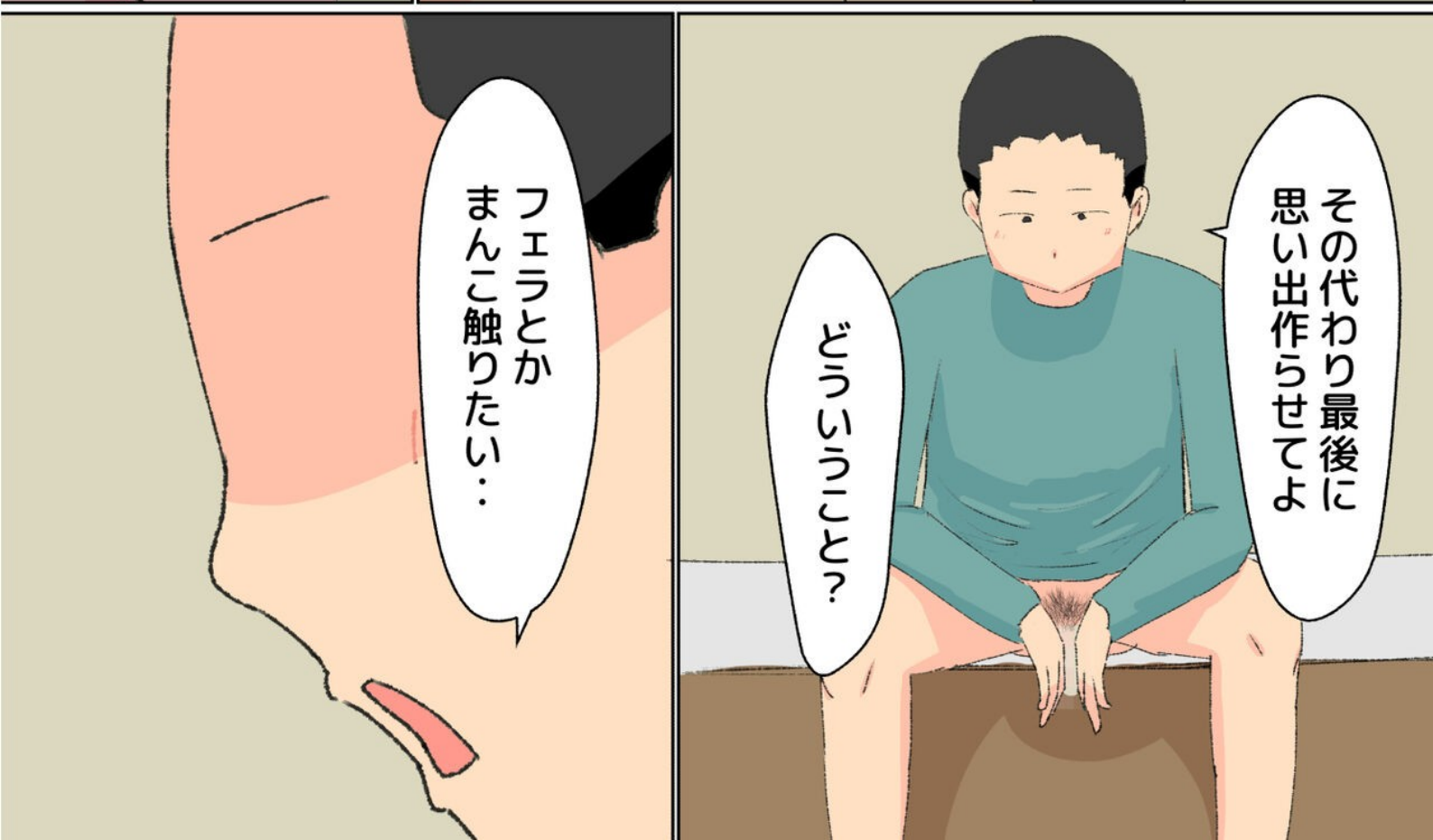
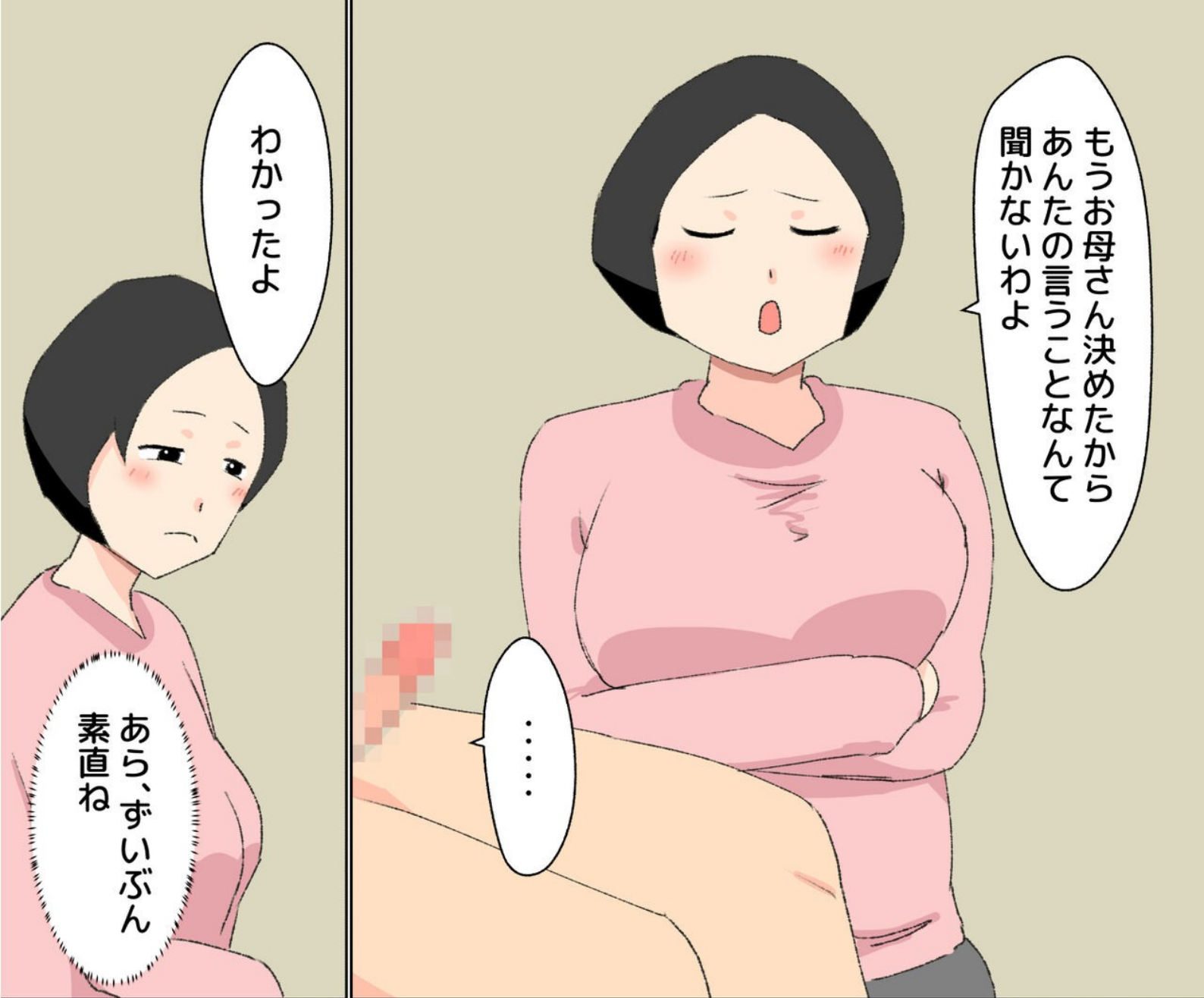
え、何言ってるの？
やだよ

もういい加減に
やめましょ
：お父さんに
言います

は？まさか
言うわけないじゃん
お父さん怒るよ？

あんたをこのままに
しとくくらいなら
その方が良くいわよ

ちょっとねえ！
やめてよ、ね？
何でもするから…



な：

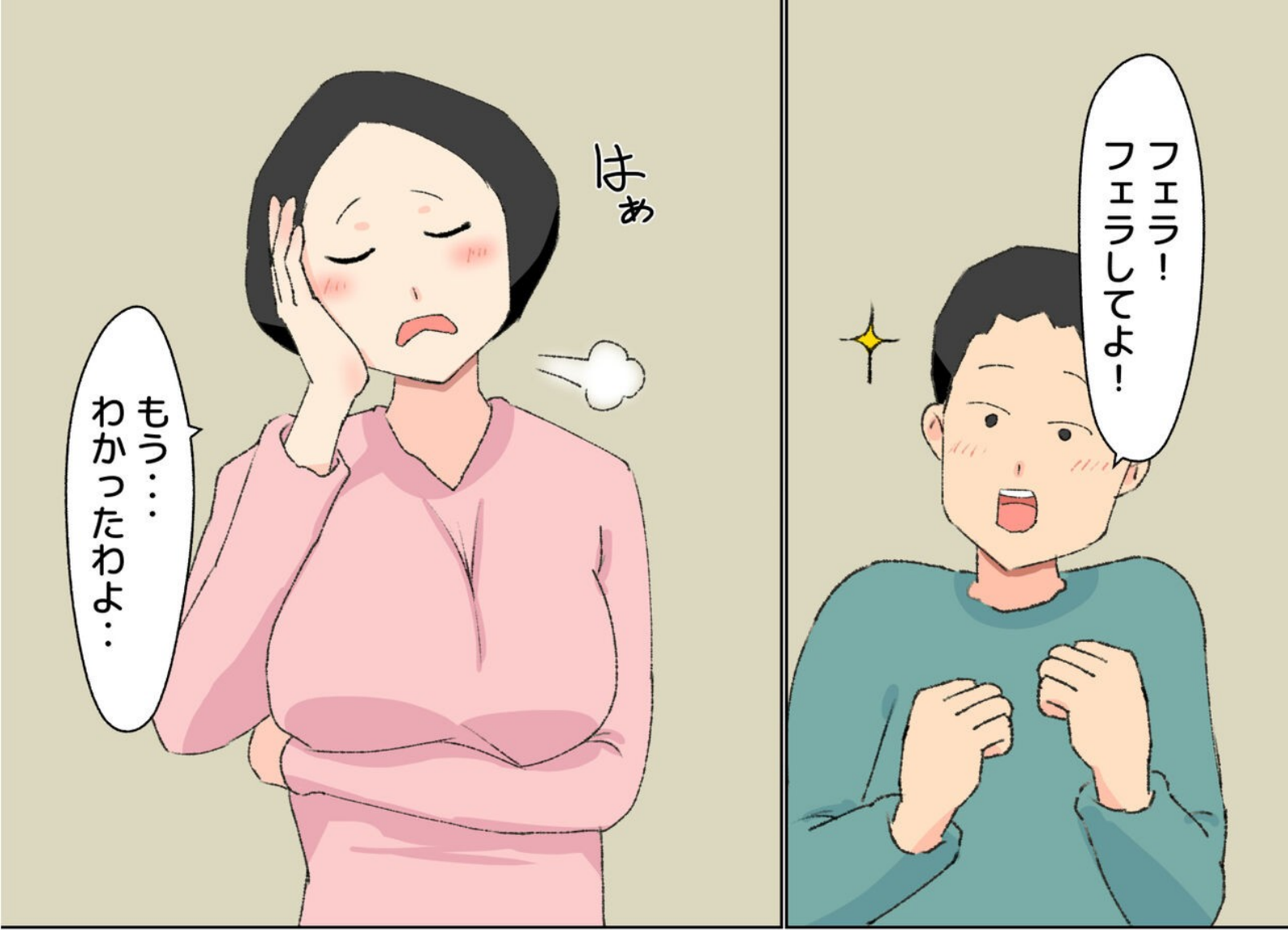
そんなことはダメと
言いかけてましたが
これで終わりに出来る

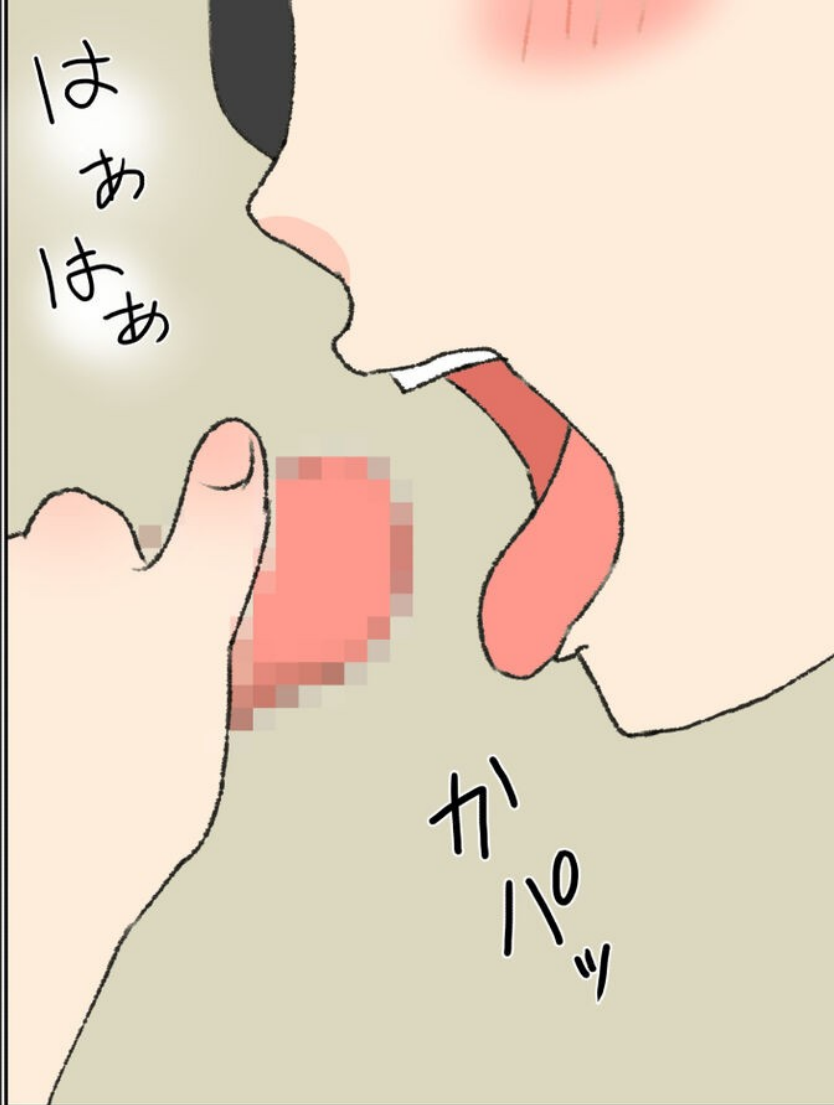
普通の親子のように
なってくれるかもしれない
という期待が勝り

ほう、じゃあ
どうして欲しいの？

お母さん
忙しいんだからね！

少しだけという
条件付きで
許してしまいました







痛くしたら
ダメだからね

聞
いて
る
の
？
わ
か
っ
た
ね
？

へー、やっぱ
ビラビラ
してるんだね

めっちゃん
お母さんの
匂いするね「」

「」
「」
「」

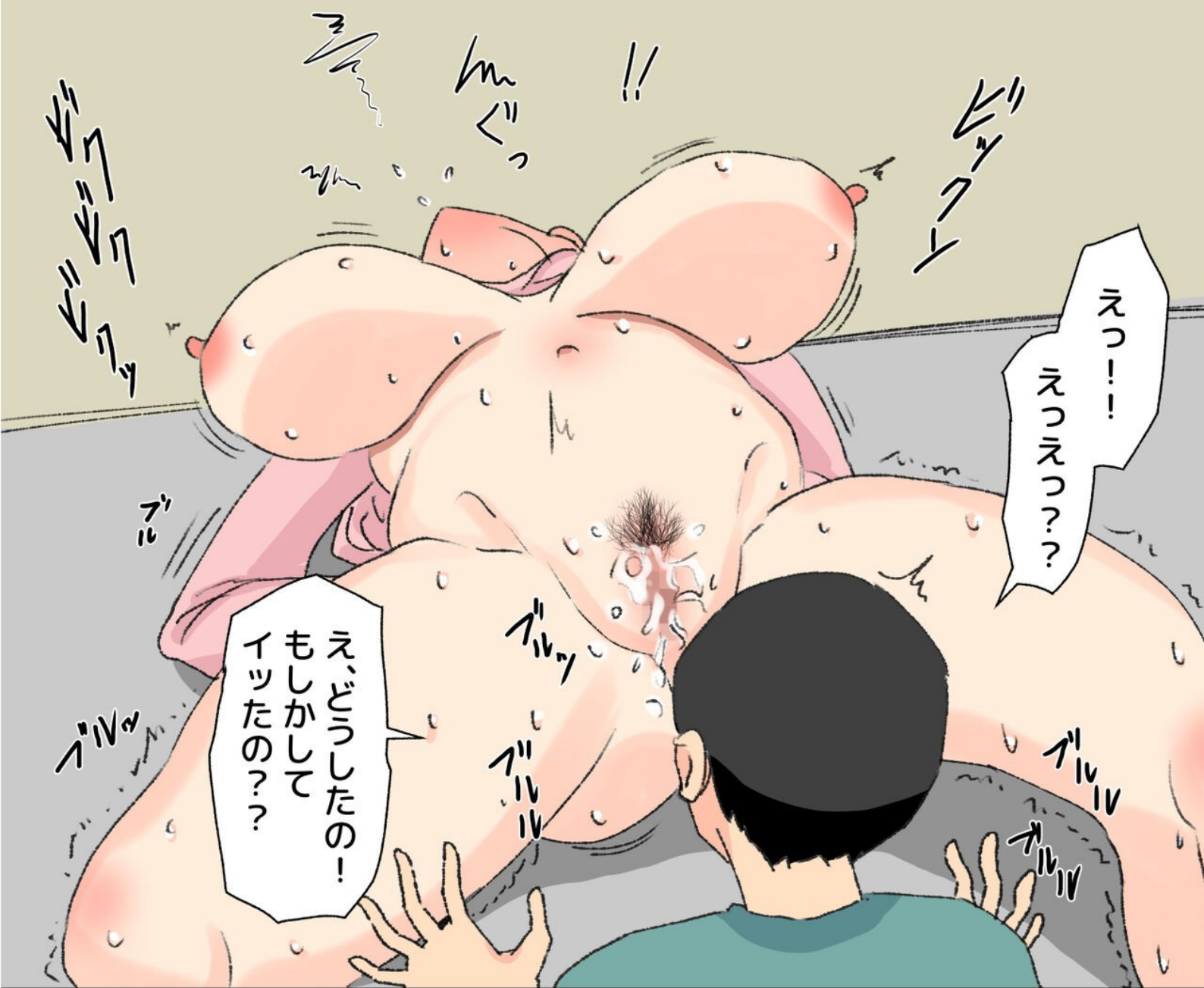
はあ

ほんと
どうしてこんな
エッチな子に
育っちゃったのかしら

男の子は
こんなもんなの
かしらね：







息子の前での絶頂
数年ぶりの快感に
激しい動揺を
隠せませんでした

同時に
何だかわからない
強い充実感も
感じてしまった
のです



ある日、息子の部屋を
掃除していた時のこと

まったくもう
すぐ散らかすん
だから！

んもう！

なんとなく
PCが目に残り

中を覗いて
みました

するとそこには
エッチな動画が
これでもかと

数えきれないほど
ためこまれて
いたのです

何とも言えない
複雑な気持ちに
鼓動が早まりました

後日

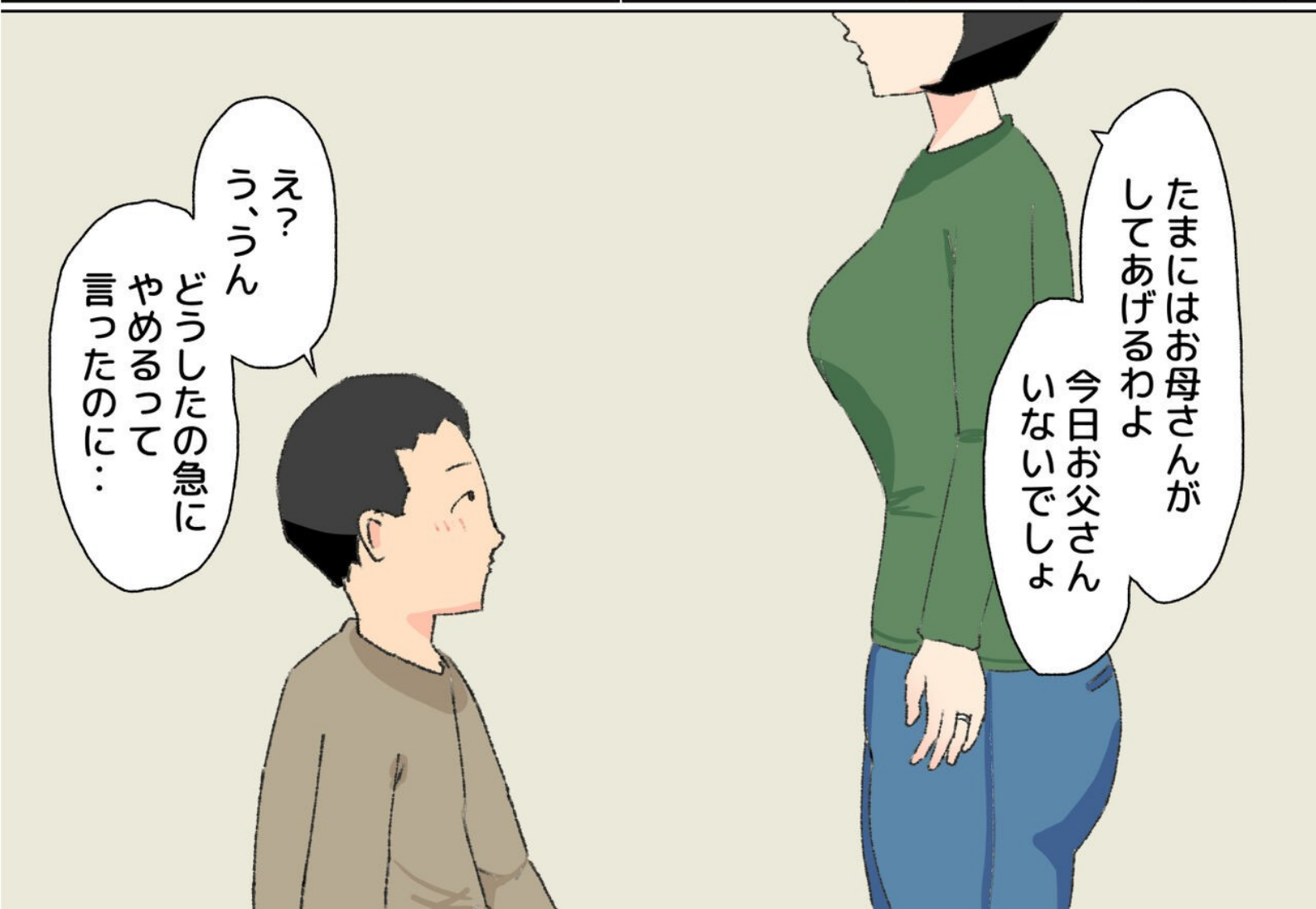
ごちそうさまー
先にお風呂
入っていいよー

忙しいー

うん
わかった

ヤイヤ

カイヤ



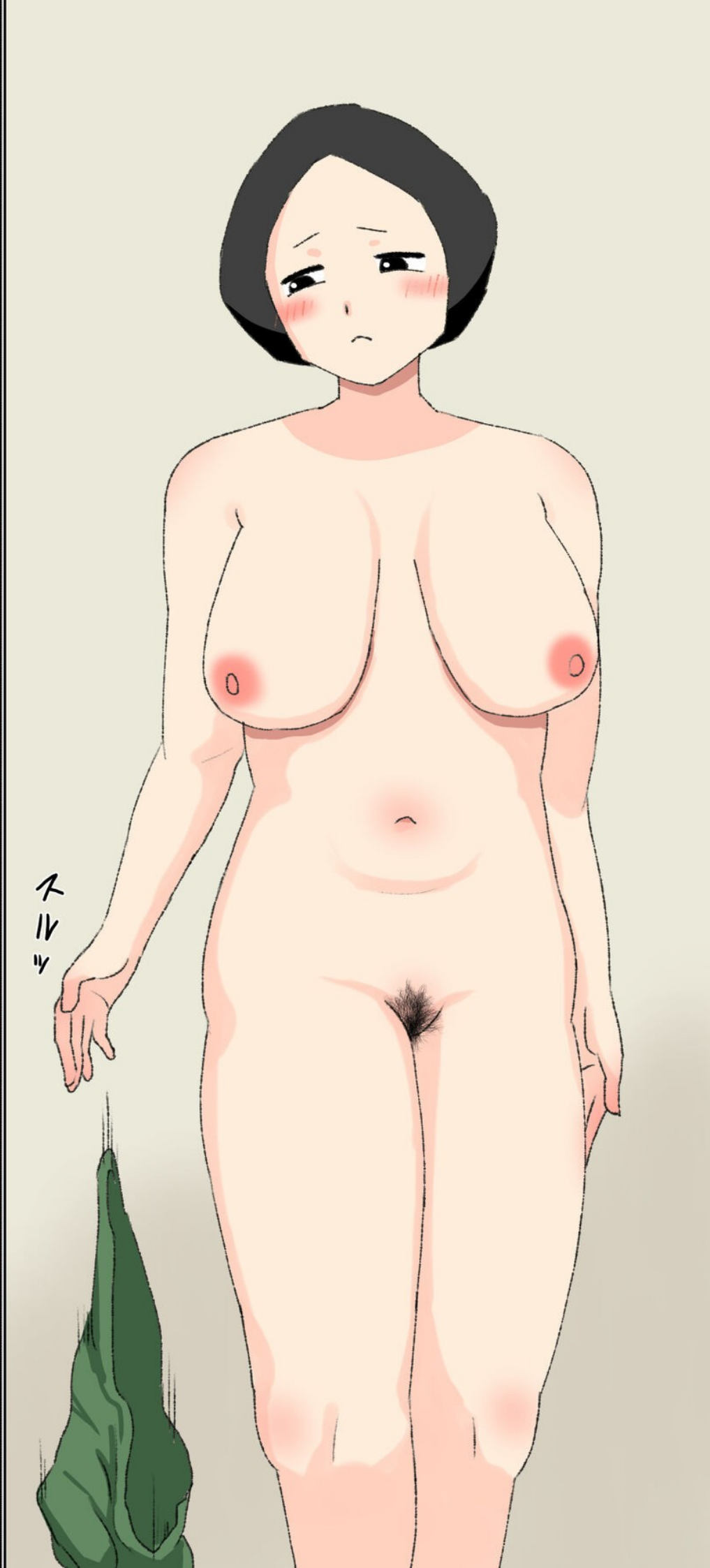




え
なになに?

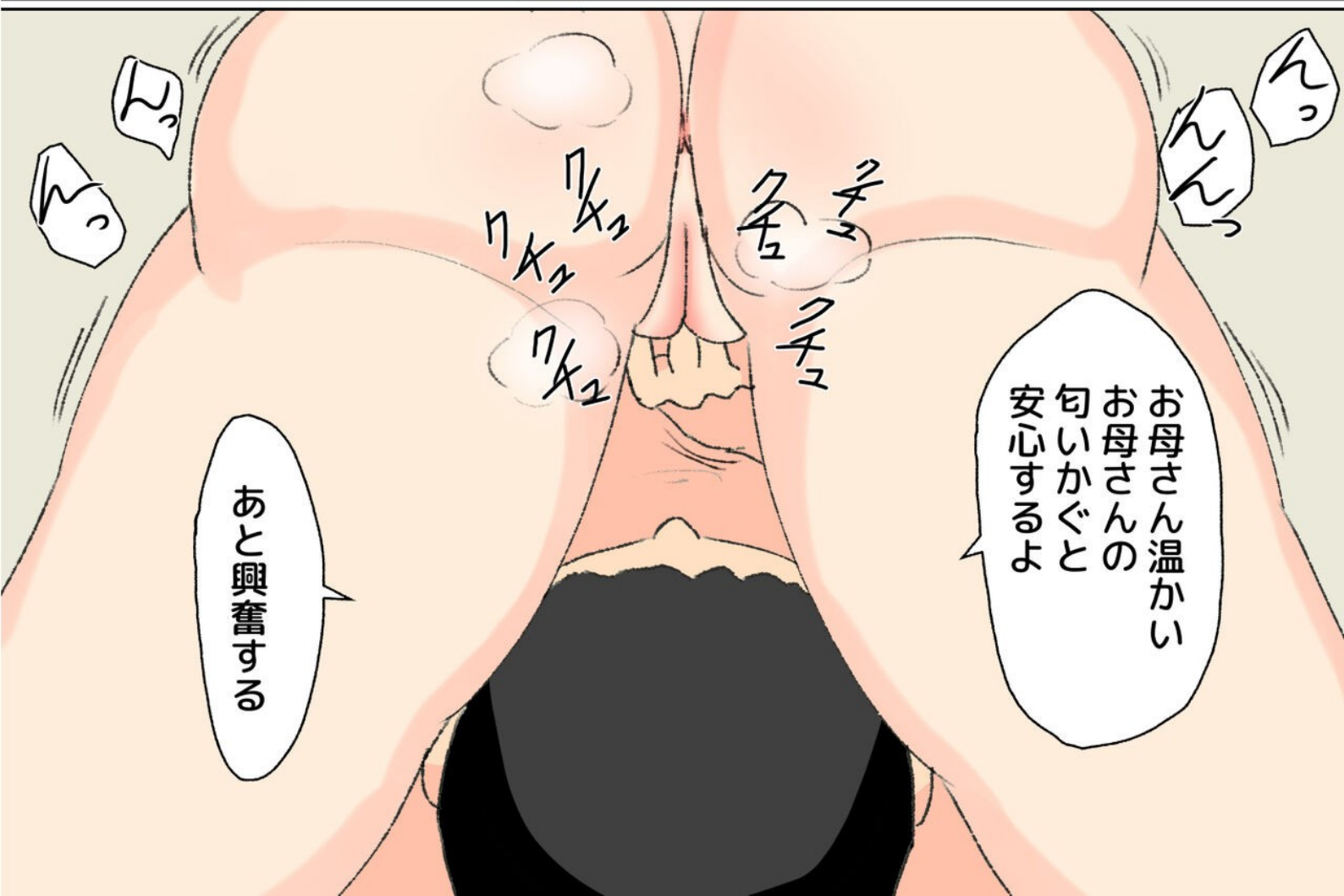
いいから
横になりなさい

スルッ



もしかしたら
初めから欲求を
満たしたかったのは
私の方かもしれないと

一瞬頭を
よぎりましたが
すぐに否定し
閉じ込めました



お母さん温かい
お母さんの
匂いかぐと
安心するよ

あと興奮する



このままでは
まともな大人に
ならないんじゃ
ないかとか

結婚
出来ないんじゃ
ないかとか

夫にバレたら
どうしようとか



そんな余計な考えは
全て捨て去り

ただ息子に
求められる

必要とされる
幸福感とスリルに
浸っていたかっただです

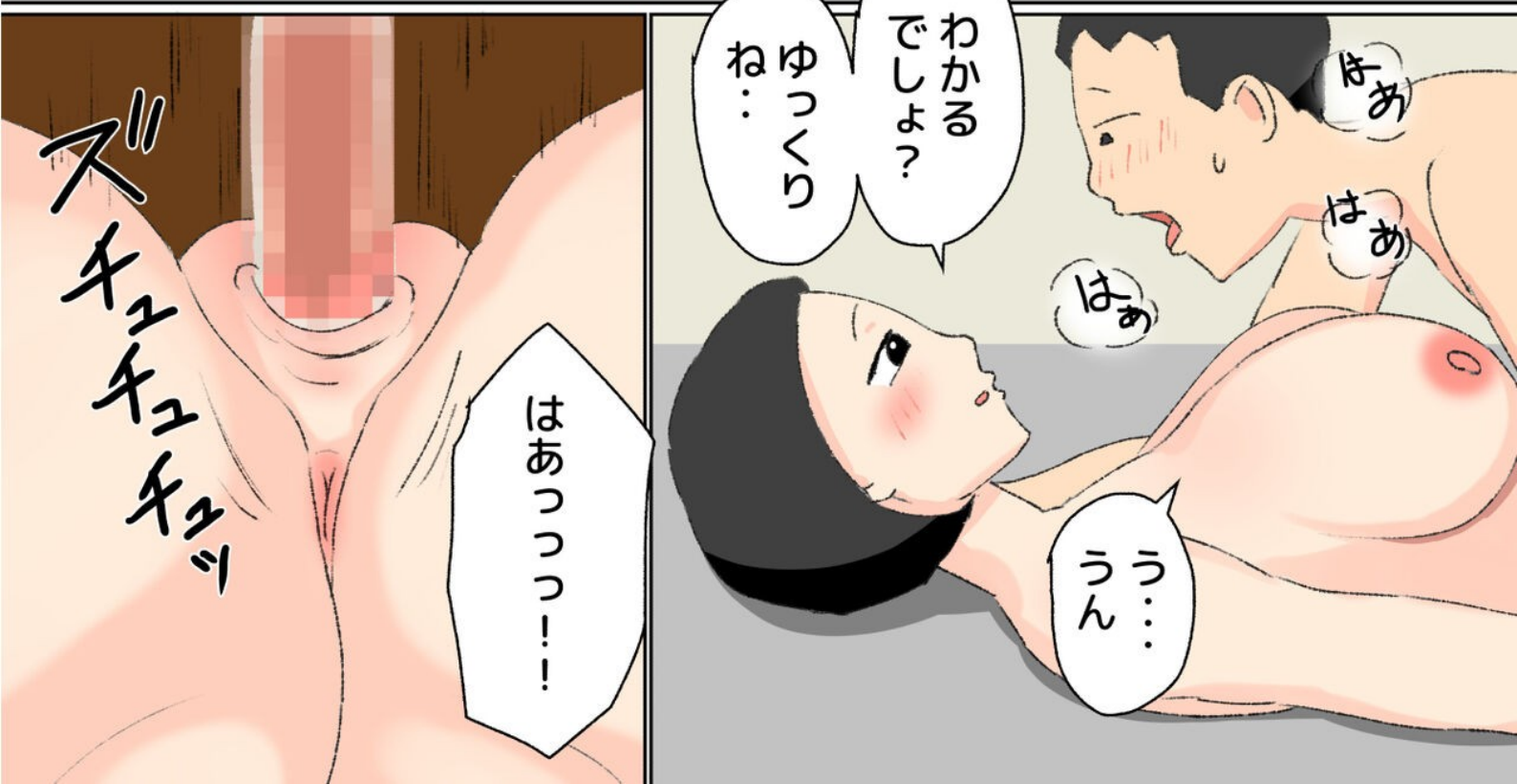
母親失格…



いいのよ..

ほ、ほんとに？

なんでも？



わかる
でしょ？

ね ゆっくり

はぁっっっ！

はぁ

はぁ

はぁ

うん..

ズッ
キュキュキュッ



すっげ
気持ち良い！

なにこれ
めっちゃ
気持ち良い！

なんでこんな
あつたかいの？

お母さんの中
あつたかいよ

息子を完全に
受け入れてしまった
罪悪感など
微塵もなく



まるで
初恋の相手と
結ばれたような

多幸感と快感に
酔いしれて
いました







ちゅーっ



セックス
やばいね

めっちゃ
気持ち良い



ごめんね..

どうして
もっと早く
教えて
くれなかったの？



うん、すっごく
気持ち良かったね

それからもう
止められませんでした

朝、夫が出勤
するやいなや

いって
らっしゃーい







セックス



早々に夕飯の支度を
済ませておき

息子が学校から
帰ってくると
すぐにまた



セックス



息子の部屋で

夫が寝た後に
息をひそめ

もはや完全に
理性を
失っていたのだと
思います



息子への愛情が
夫へのそれより
明らかに強く：



そして息子も
それに応えて
くれていました

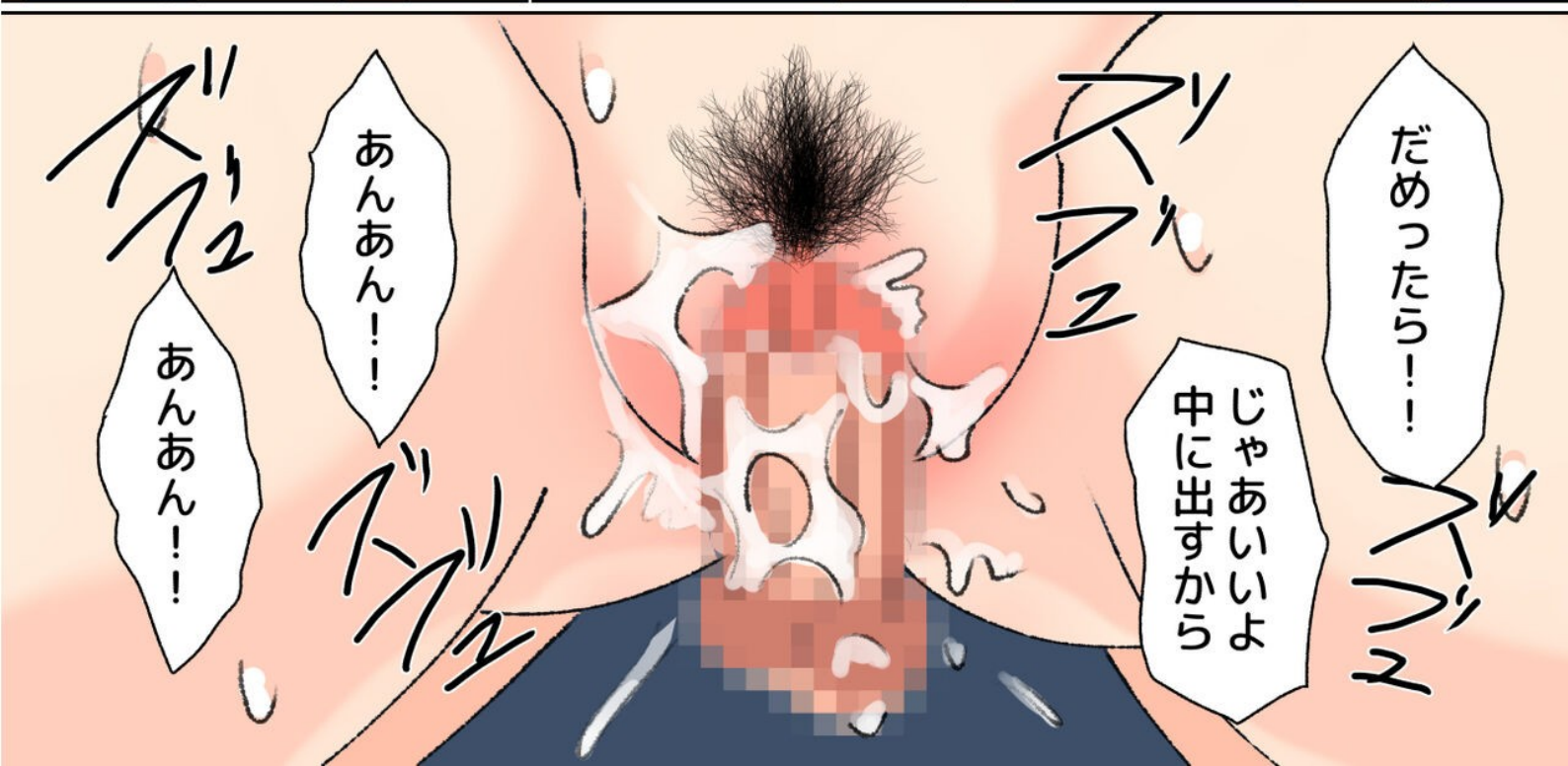




ねえいいじゃん
ねえー

ねえお母さん
顔にかけていい？

だめよ
またシャワー
浴びなきゃに
なっちゃうでしょー！



だめったらー！

じゃあいいよ
中に出すから

あんあんー！

あんあんー！



間違っている
わかっていても

息子と通じ合えて
いることが

ただただ
この上ない
幸せでした

後悔なんて
ありません

母乳出れば
いいのにー

終わり



ありがとう♡

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・名称等は架空であり
実在のものとは関係ありません。